



公立高入試、33年度(現小6)から一本化!

(1) 平成33年度から一本化

平成33年度入試から、公立高校の入試が一本化されること(受験機会が1回になること)になりました。現小6生が受験する年で

県教育委員会によって提示された改善案は次の通りです。

改善方針案

- ◆ **本検査**
- 実施時期: 2月下旬(2日間)
- 検査内容: 第1日 学力検査 3教科
第2日 学力検査 2教科+各学校で定める検査*
- * (面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、学校独自問題およびその他の検査のうちからいずれか一つ以上の検査)
- 入学願書提出期間: 2日間
- 志願または希望変更の受付期間: 2日間
- 選抜方法: 学力検査、調査書の内容および各学校の特色に応じ、生徒の多様な能力・適性・努力の成果等の優れた面を多元的に評価できる選抜とする。
- ◆ **追検査**
- 実施時期: 本検査の結果を発表するまでに実施(1日)
- ◆ **結果発表**
- 本検査と追検査の結果を併せて同一日に発表

県教委が示す改善の方向性は「これまでの入学者選抜の理念を継承し、学習の成果に加え中学校での取り組みや活動経験等、生徒の優れた面を多角的に評価できる選抜とする」というものです。要するに、現在行われている<前期選抜>の形で一本化するということでしょう。

(2) 一本化のメリット

一本化することによる最大のメリットは、1回入試であれば合格していただく生徒が不当に不合格にならずに済むということです。

<前・後期選抜>ですと、前期では定員の60%までしか採りませんが、下位40%の受験生は不合格になってしまいます。例えば、昨年の千葉西高校では、前期入試で442名が受験して216名が合格、226名が不合格でした。これが一本化されると、不合格者のうち144名が合格となります。つまり、合格360名、不合格82名となるわけです。

しかも、前期不合格者の中には、必要のない志願変更をして志望校を下げたり、併願の私立高校に決めてしまったりする生徒もいます。一本化すればそうした不要な志願変更をしなくても済むようになります。

また、一本化すると倍率が大幅に下がります。例えば、昨年の磯辺高・前期選抜の実質倍率は2.82倍と非常に高い数字でした。受検者542名に対し、前期の定員が192名だったからです。倍率が高いということは、不合格者が多くなるということです。

これが1本化すると、前期で全体定員の320名まで合格になります。したがって、実質倍率は $542 \div 320$ で約1.69倍まで下がります。

もちろん、現行のように受験機会が2回あることにもメリットはあります。その最大のメリットは、前期で挑戦校を受検することができるという

うことでしょう。1回入試になれば、多くの生徒は“実力相応校”のみの受験とならざるを得なくなるでしょう。

さて、そのどちらのメリットを優先させるかということですが、私是一本化のメリットの方がはるかに大きいと思います...

新中1になったなら... —— 通信簿は大事だよ!

小6の皆さんは、もう中1ですね。「中学に入ったらどの部活に入ろうか?」とか、「よその小学校から来る生徒もいるけど、仲良くなれるかな?」とか、いろいろ思いを巡らしていることでしょう。

さて、私は塾の教師ですから、勉強面から一つアドバイスをさせていただきます。それは、「通信簿はとっても大事だよ」ということです。

まだ早い話ですが、3年後には高校入試があります。多くの方は公立を第一志望とすでしょう。さて、公立高校の入試はどうやって合否を決めるか知っていますか? 実は、500点満点の入試に、中1から中3までの内申の評定値(通信簿の5・4・3・2・1と書いてほぼ大丈夫です)の合計135点満点が足されて決まります。(他にも、各高校が設定した加点要素がありますが、煩雑になりますので、ここでは触れません。)

するとどうなるか。例えば、同じ高校を受けるAさんと、B君がいるとします。Aさんの評定値合計は130点、B君の評定値合計は80点だとします。二人の評定値合計は50点の差があります。つまり、B君は本番の入試で、Aさんよりも50点以上余計に取らないと勝てないということです。これはかなりきついですよ!

入試の方は中3から頑張るにしても、評定値の方は入試前に既に決まっています。中3になって、「今から頑張るから中1の評定値を変えてよ!」と言っても、それはできません。「通信簿はとっても大事」といった意味が分かりますか?

公立高前期入試、当塾の予想平均点は「290±5」点

今年度(30年度)の公立高校前期入試は、2月13日・14日に行われました。実質倍率は、全県平均で1.73倍でした。

昨年の5科平均点は276.1点でした。当塾による今年の平均点は昨年より15点ほど高い「290±5点」です。

今年は国語・社会がやや難しかったようですが、数学が易しかったですね。大問3(2)②、大問4(2)、大問5(4)など難しい問題もありましたが、この15点を除けば、易しい問題が多かったようです。数学は易しい問題をしっかりと取り取れば十分です。

31年度(現中2)公立高校入試日程

<前期選抜> 検査 平成31年2月12日(火)/13日(水)

発表 2月19日(火)

<後期選抜> 検査 平成31年2月28日(木) 発表 3月6日(水)